

髪の先まで濡れている　霧滴れる　噂がある　この森で　龍を見た　行きに一匹、

行きに一匹、帰り一匹、これが普通なのだけどね、もしね、一匹しかいなかったらね……どう！　びっくりしたあ？　おばあちゃんね、魔女なのよ。龍なんてね昔からこーんなにたくさん見てきてね、龍が胸のなかとここにすうううってきちゃったたらあんだ気をつけなさいよお、お腹のあたりがね、ぜーんぶ龍になっちゃう。そうなっちゃったらねえ、どうしようもないんだけどね、おばあちゃんはね、魔女なのよ。昔ね、龍にされたときにね、こうやってね、ふんと気張ってね、ひゆるひゆる出したのよ！　出してやるとねえ、悲しい気持ちになるんだけどねえ、なんだかかわいくも思えてきちゃってね、そしたらね、なにしているの！　って言われて、気がついたらね、トイレに座ってたのよ。さつきまでね、山の奥にいたのにね。ぽんっとね、びっくりしたのよ。

午後六時十五分富士北東白糸の瀧、上昇すること十メートル、横幅一メートルの山道が霧雨に溶かされて、樹幹に交わった、看板に交わった、ロープに交わった、人影に交わった、交わりながら溶けた、歩いていることがいつしか変わるといことになる、あと何歩歩いたらわたしたちは山になるのだろう、あと何歩歩いたらわたしたちは川になるのだろう、あと何歩歩くことが許されるのだろうか、あと何歩分、何歩分の時間、何歩分の時間が過ぎて、東屋が見えてくる、四辺が青冷めているのに気がつく、霧の一粒一粒が浮き上がる、時が止まる、星が止まる、白糸の瀧。

星が止まったんは今年が初めてではなくて、およそ百年前、この町が蚕を育てていた頃、そうそう、あの春にも止まったんだよ。満天がね、木木がこうやってね覆い立っているのにね、夜中の満天はね、白く見えるんだよねえ。空って青いだとか黒いだとか言うでしょ、それはね、わたしたつが白いまんまでいるからそうなるんだよね。わたしたつが黒くなってみりゃね、空の方が白くなる。お空が白くなってえ、生きてるもんみんな黒くなって、止まる